

National Clinical Database: Case Report Form 記入の手引き J-PCI

注意事項

このCase Report Form(以下、CRF)は、National Clinical Database(以下、NCD)への症例登録にあたっての補助資料です。

各項目の定義については本CRFをご参照ください。

本CRFはあくまでも補助資料のため、最終的な症例登録はWeb経由で行ってください。

本CRFをNCDに送付いただいても、症例登録とみなすことはできません。あらかじめご了承ください。

記入に際してのルール

記入ルールは、以下の通りです。なお、○と□のアイコンについては、Web上も同じルールです。

○: 択一の項目です。該当するものを1つだけお選びください。

□: 複数選択の項目です。該当するもの全てをお選びください。

下線: テキスト文章の記入欄です。

項目名の網掛けが灰色部分: 必須項目です。

お問い合わせ

ご不明な点、ご質問等がありましたら、NCDホームページお問い合わせフォームよりお問い合わせください。

(URL <https://www.ncd.or.jp/contact/>)

お問い合わせの前にFAQもご参照ください。(URL <https://www.ncd.or.jp/faq/>)

※メールでの一元管理を行っていますので、お電話でのお問い合わせは承っておりません。何卒ご了承ください。

また、お問い合わせの内容によっては、回答までにお時間を要する場合があります。

今回入院に至った診断名①【1カ月以内に症状を有した症例の分類】	
安定狭心症	最近1カ月間の症状が安定している狭心症で、安静時の発作がない(=症状の誘発は高度の労作時に限り、その頻度や程度が1カ月間変化していない。)。
不安定狭心症	狭心症と考えられる症候が存在し、加えて以下のうちの1つを満たすもの。 ①NewOnsetAngina: 最近1カ月以内に発症した新規狭心症 ②IncreasingAngina: 最近1カ月以内に悪化した増悪型狭心症 ③RestingAngina: 持続する安静時の狭心症、または日常生活が著しく制限される狭心症(歩行数十メートルや階段1階分等で症状出現) ④梗塞後狭心症: 心筋梗塞イベント後1カ月以内の持続する狭心症。 ただし、STや心筋マーカーの上昇は伴わない
急性心筋梗塞	持続する心筋虚血症状に、心筋マーカーの上昇を伴ったもの。心筋マーカーの上昇はCKやCK-MBの上昇[正常値の2倍以上]、もしくはトロポニン値の上昇[99パーセンタイル値以上]とする。以下のSTEMIとNSTEMIに分類される。 1) ST上昇型急性心筋梗塞(STEMI): 心電図上で隣接する2つ以上の誘導でST上昇(胸部0.2mV以上、四肢0.1mV以上)、新規左脚ブロック、または純後壁梗塞が認められる。 2) 非ST上昇型急性心筋梗塞(NSTEMI): 心電図変化がST上昇型に属さないか、存在しない。
ステント血栓症	AcademicResearchConsortium(ARC)の定義上Definiteとされるもの。 この項目は上記の項目とあわせて重複選択可能とする。 【ARC定義:ステント血栓症】 1. 血管造影によるステント血栓症の確認 ステント内またはステント両端5mmの部位に由来する血栓が認められ、かつ48時間以内に以下の基準のうち1項目以上を満たしたもの。 1) 安静時虚血症状の急性発症 2) 急性虚血を示唆する新規の虚血性心電図変化 3) 心筋マーカーの典型的な上昇および低下 2. 病理によるステント血栓症の確認 剖検または血栓除去後の組織検査による亜急性ステント内血栓の所見。

今回入院に至った診断名②【1カ月以内に症状を特に有さない症例の分類】	
陳旧性心筋梗塞	以下のうちの1つを満たす。 1) 明らかな胸部症状が最近1カ月以内に存在しておらず、心電図上で新規の異常Q波が隣接する2つの誘導以上で出現している。 2) 明らかな胸部症状が最近1カ月以内に存在しておらず、画像上で区域性の非生存心筋(梗塞:菲薄化し収縮性が欠如)が証明されている。
無痛性虚血性心疾患	明らかな胸部症状が最近1カ月以内に存在しておらず、負荷心電図・画像検査(心筋シンチ、エコー、MRI等)で区域性の虚血が証明されている場合。
Staged PCI(2019年以降規定)	1つの冠動脈疾患の診断に対して複数回のPCIを必要とする場合、2回目以降のPCIをStaged PCIとする。ACS後のStaged PCIの場合には、臨床的な状況が落ち着いている状況下であれば<症状なし>をクリックし、その後<Staged PCI>を選択する。

術前情報	
心不全の既往	これまでに心不全と診断された症例。ただし、症状を伴わない左室機能低下例は除く。
24時間以内の心肺停止	PCI施行前24時間以内で、心肺蘇生を要した心静止 (asystole)・心室細動 (VF)・脈拍を触知しない心室頻拍 (pulseless VT)
24時間以内の心原性ショック	PCI施行前24時間以内で、臨床的に循環不全 (下記のいずれか) と判断された症例。 ・最大限の治療にも関わらず収縮期血圧 < 80mmHg and/or 心係数 < 1.8L/min/m ² ・収縮期血圧 > 80mmHg、心係数 > 1.8L/min/m ² を保つために強心剤等の静注やIABPサポートが必要。
24時間以内の急性心不全	PCI施行前24時間以内で、急性心不全の状態と診断され、安静時・軽労作でも症状を有する場合 (NYHA IV相当)。急性心不全には以下の様な症状や兆候が含まれる。 ・軽労作中の呼吸困難 (心臓疾患が原因) ・起座呼吸 (心臓疾患が原因) ・体液貯留 (心臓疾患が原因) ・湿性う音 ・頸静脈怒張 ・胸部X線上の肺水腫像

併発疾患											
糖尿病	【日本糖尿病学会：糖尿病診療ガイドライン2019年版】 以下のうちの1つを満たす。 (ア)空腹時126mg/dl以上 (イ)随時血糖200mg/dl以上 (ウ)HbA1c6.5以上 (エ)経口血糖降下薬、あるいはインスリンなど注射製剤により治療中										
高血圧	【日本高血圧学会：高血圧治療ガイドライン2019年版】 以下のうちの1つを満たす。 (ア)診療所SBP140mmHg以上 (イ)診療所DBP90mmHg以上 (ウ)降圧薬により治療中										
脂質異常症	【日本動脈硬化学会：動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2017年版】 脂質異常症：スクリーニングのための診断基準(空腹時採血) いずれかを満たす <table><tr><td>LDLコレステロール</td><td>140mg/dL以上</td><td>高LDLコレステロール血症</td></tr><tr><td>HDLコレステロール</td><td>40mg/dL未満</td><td>低HDLコレステロール血症</td></tr><tr><td>トリグリセライド</td><td>150mg/dL以上</td><td>高トリグリセライド血症</td></tr></table>		LDLコレステロール	140mg/dL以上	高LDLコレステロール血症	HDLコレステロール	40mg/dL未満	低HDLコレステロール血症	トリグリセライド	150mg/dL以上	高トリグリセライド血症
LDLコレステロール	140mg/dL以上	高LDLコレステロール血症									
HDLコレステロール	40mg/dL未満	低HDLコレステロール血症									
トリグリセライド	150mg/dL以上	高トリグリセライド血症									
喫煙	過去1年以内に喫煙歴があるものすべて。										
慢性腎臓病 (CKD)	【日本腎臓病学会：エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2018年版】 下記のいずれか、または両方が3ヶ月以上続いている状態 (ア)尿異常、画像診断、血液、病理で腎障害の存在が明らか。特に蛋白尿の存在が重要。 (イ)eGFR60ml/min/1.73m2未満										
維持透析	人工透析、腹膜透析施行中のもの。										
慢性肺疾患 (COPD)	慢性呼吸障害：1秒率70%以下、もしくはステロイド薬吸入や気管支拡張薬吸入・内服が行われている。但し、気管支喘息は慢性肺疾患には含まない。										
末梢血管障害 (AAA/PAD)	心臓以外の血管病変の既往(大動脈瘤または末梢血管〔腎、総腸骨、大腿動脈など〕の50%以上の狭窄)。下記を含む。 ・間欠性跛行の症状 ・ABI ≤0.9 ・動脈狭窄閉塞による跛切断・バイパス手術・血管形成の既往										
COVID-19	PCIの際に、確定診断によってCOVID-19感染が確認されたPCI施行患者										

手技に関する合併症	
PCI手技による心筋梗塞	Q波梗塞、非Q波梗塞を統合。参照)Universal Definition of Myocardial Infarctionでは、PCIに伴う心筋梗塞(MI)は、cTnの正常上限5倍以上の上昇と規定
心タンポナーデ	PCI施行後に新たな血行動態を悪化させる心嚢液の貯留があり、心嚢ドレナージを要した場合。
補助循環や強心薬を必要とする心不全・ショック(心原性ショック)	輸液によって改善しない低血圧状態(収縮期血圧90mmHg未満もしくは平均血圧60mmHg未満)。長期入院患者の場合、PCI施行より30日以降のイベントは含まない。
ステント血栓症(院内発症)	ARCの定義上のdefiniteとする。 【ARC定義:ステント血栓症】 1. 血管造影によるステント血栓症の確認 ステント内またはステント両端5mmの部位に由来する血栓が認められ、かつ48時間以内に以下の基準のうち1項目以上を満たしたもの。 1) 安静時虚血症状の急性発症 2) 急性虚血を示唆する新規の虚血性心電図変化 3) 心筋マーカーの典型的な上昇および低下 2. 病理によるステント血栓症の確認 剖検または血栓除去後の組織検査による亜急性ステント内血栓の所見。
緊急手術	リスクの悪化を避けるために同じ入院中に行われた、予定されていない外科手術。
輸血を必要とする出血性合併症(アクセスサイト)(2019年以降規定)	術中か術後の出血により輸血を必要とし、大腿動脈や橈骨動脈などの穿刺箇所周辺の出血あるいは血腫
輸血を必要とする出血性合併症(非アクセスサイト)(2019年以降規定)	術中か術後の出血により輸血を必要とし、大腿動脈や橈骨動脈などの穿刺箇所とは関係性の低い部位からの出血あるいは血腫

院内死亡	
院内死亡(2019年以降規定)	手技の関与を問わず、入院中の全ての死亡を指す。PCI 施行後の経過日数を問わない。
死因	心臓死には、急性冠症候群(ACS)による死亡、心臓突然死、心不全による死亡、脳梗塞による死亡、心臓に対する手技・手術による死亡、心臓からの重大な出血による死亡、そして心臓を主要因(※)として引き起こされた死亡が含まれる。なお、全ての死亡は明らかな非心臓死の原因がない限り心臓死と見なされる。(Circulation. 2018;137:961-972) ※ 主要因とは最終的に死亡へとつながる一連の事象の根源となるような要因を指す。例えば、ACSが致死的不整脈の原因となった場合には、主要因はACS(つまり、心臓死)となる。 手技関連死は、心臓死のうち、PCI あるいは その他の観血的な手技による合併症が直接の要因となった場合の死亡(心臓に対する手技・手術による死亡)を指す。

抗脂質薬(PCI後投薬)	
スタチン(高強度)	アトルバスタチン 20mg 以上、ロスバスタチン 10mg 以上、ピタバスタチン 4mg 以上
スタチン(非高強度)	上記の高強度スタチンに該当しないスタチンおよびその投与量

National Clinical Database
Case Report Form : J-PCI

患者情報

院内管理コード (施設患者番号)	☐ 施設方針により記入しない _____	院内管理コードを記入する場合は、各施設診療科で決めて記入。 半角英字と半角数字で20桁まで。
患者性別	☐ 男性 ☐ 女性	
患者生年月日	西暦 _____ 年 _____ 月 _____ 日 ☐ 日までは不明	年月まで記入必須。

手術・インターベンション情報術前情報

PCI歴	☐ 有 ☐ 無 ☐ 不明	
CABG歴	☐ 有 ☐ 無 ☐ 不明	
心筋梗塞の既往	☐ 有 ☐ 無 ☐ 不明	
心不全の既往	☐ 有 ☐ 無 ☐ 不明	J-PCI表紙「術前情報」参照。
24時間以内の心肺停止	☐ 有 ☐ 無 ☐ 不明	J-PCI表紙「術前情報」参照。
24時間以内の心原性 ショック	☐ 有 ☐ 無 ☐ 不明	J-PCI表紙「術前情報」参照。
24時間以内の急性心不全	☐ 有 ☐ 無 ☐ 不明	J-PCI表紙「術前情報」参照。
1カ月以内の症状の有無	☐ 有 ☐ 無	
今回PCIに至った診断名 (1カ月以内に症状を有した 症例の分類)	【1カ月以内の症状の有無】で「有」を選んだ場合に記入する。 ☐ 安定狭心症 ☐ 不安定狭心症 ☐ 急性心筋梗塞 (☐ 非ST上昇型 ☐ ST上昇型 ☐ 不明) ☐ スtent血栓症	J-PCI表紙「今回入院に至った診断名①【1カ月以内に症 状を有した症例の分類】」参照。 ACS後の Staged PCI の場合には、臨床的な状況が落ち 着いている状況下であれば【1カ月以内の症状の有無】で 「無」を選択し、その後「Staged PCI」を選択する。 「急性心筋梗塞」が選ばれた場合、下位選択肢(非ST上 昇型、ST上昇型、不明)は記入必須。 「Stent血栓症」は他の選択肢と重複可能。
PCI 実施前の胸部症状 (胸痛や胸部圧迫感など) の頻度	【1カ月以内の症状の有無】が「有」かつ【今回PCIに至った診断名】が 「安定狭心症」の場合に記入する。 ☐ 月一回以下の頻度 (yearly) ☐ 月一回以上 (monthly) ☐ 週一回以上 (weekly) ☐ 日一回以上 (daily)	「患者によって報告された、心筋虚血に由来すると考えら れる胸部症状(例. 胸痛や胸部圧迫感) (参考. 2021 AHA/ACC/ASE/CHEST/SAEM/SCCT/SCMR Guideline for the Evaluation and Diagnosis of Chest Pain 項目 1.4.2)」
今回PCIに至った診断名 (1カ月以内に症状を特に 有さない症例の分類)	【1カ月以内の症状の有無】で「無」を選んだ場合に記入する。 ☐ 陳旧性心筋梗塞 ☐ 無痛性虚血性心疾患 ☐ Staged PCI ☐ その他 [_____]	J-PCI表紙「今回入院に至った診断名②【1カ月以内に症 状を特に有さない症例の分類】」参照。
併発疾患	☐ 糖尿病 ☐ 高血圧 ☐ 脂質異常症 ☐ 喫煙 ☐ 慢性腎臓病(CKD) ☐ 維持透析 ☐ 慢性肺疾患(COPD) ☐ 末梢血管障害(AAA/PAD) ☐ 併発疾患なし	J-PCI表紙「併発疾患」参照。 「併発疾患なし」が選ばれた場合、他の選択肢との重複 不可。

術前画像・負荷検査の施行	今回入院に至った診断名で「安定狭心症」「陳旧性心筋梗塞」「無痛性虚血性心疾患」「その他」の4項目を選んだ場合に記入する。 ○有 ○無	PCI 施行より 3ヶ月以内 に行われた冠動脈の解剖もしくは虚血評価を目的として行われた検査の有無
検査の内容	【術前画像・負荷検査の施行】で「有」を選んだ場合に記入する。 ☐ 冠動脈CT ☐ 負荷心電図 ☐ 負荷シンチ ☐ 負荷エコー ☐ 負荷MRI ☐ 非侵襲的FFR-CT ☐ FFR/Resting Index ☐ その他	
非侵襲的FFR-CT	【検査の内容】で「非侵襲的FFR-CT」を選んだ場合に記入する。 [_____]	0.01単位で記入。小数点第二まで。 最小値:0.10 最大値:1.00
FFR/Resting Index	【検査の内容】で「FFR/Resting Index」を選んだ場合に記入する。 ☐ FFR ☐ Resting Index	
FFR	【FFR/Resting Index】で「FFR」を選んだ場合に記入する。 [_____]	0.01単位で記入。小数点第二まで。 最小値:0.10 最大値:1.00
Resting Index	【FFR/Resting Index】で「Resting Index」が選ばれた場合に記入する。 [_____]	0.01単位で記入。小数点第二まで。 最小値:0.10 最大値:1.00
術前抗血小板薬の使用	○有 ○無	PCI 施行の 24時間以内 に投与された抗血小板薬の有無
術前抗血小板薬の種類	【術前抗血小板薬の使用】で「有」を選んだ場合に記入する。 ☐ アスピリン ☐ クロピドグレル ☐ プラスグレル ☐ チカグレロル ☐ その他の抗血小板薬	
術前経口抗凝固薬の使用	○有 ○無	PCI 施行の 24時間以内 に投与された抗凝固薬の有無
術前経口抗凝固薬の種類	【術前経口抗凝固薬の使用】で「有」を選んだ場合に記入する。 ☐ ワーファリン ☐ DOAC ☐ その他の抗凝固薬	
術前 Hgb	[_____]g/dl	1.0-24.0 の間の小数点一桁記入。 術前30日前までの期間で最も新しい数値 本登録におきましては PCI 術前に Hgb と Cr 計測がなされていないというケースは想定しておりません。もしも例外的にそのようなことがございましたら各検査値の最大値(Hgb は 24.0、Cr は 20.0)を記入する。
術前 Cr	[_____]mg/dl	0.1-20.0 の間の小数点一桁記入。 術前30日前までの期間で最も新しい数値 本登録におきましては PCI 術前に Hgb と Cr 計測がなされていないというケースは想定しておりません。もしも例外的にそのようなことがございましたら各検査値の最大値(Hgb は 24.0、Cr は 20.0)を記入する。
病変数	☐ 1枝 ☐ 2枝 ☐ 3枝 ☐ 主幹部	AHA分類75%(実測50%)以上の有意狭窄病変を有する主要冠動脈。 例えば右冠動脈に90%、主幹部に75%の病変を認めた場合には「1枝」と「主幹部」を記入する。 なお、狭窄度は以下すべてAHA基準に応じて規定するものとする。

手術・インターベンション情報術中情報

PCI施行日	西暦 _____年____月____日	
年齢	【患者生年月日】と【PCI施行日】から年齢が自動計算される。	
第一術者	医籍番号_____	その施設、診療科の責任者が第一術者として認めた術者もしくは 指導介助者（専門医の場合は自己認定可） 但し、公式の診療記録 あるいは 看護記録 に名前があること
指導的介助者	○有 ○無 ○不明 ○医籍番号_____	専門医の更に上級専門医が指導的介助した場合も登録可能。 但し、公式の診療記録あるいは看護記録に名前があること 該当者がいない場合は空欄とする CVIT心血管カテーテル治療専門医の更新に際して登録可能。 【参考】将来的には以下の要件を必須とする方向で議論が進められている： ・カテ室で直接指導・介助した医師であること ・CVIT 専門医・名誉専門医であること
PCIのステータス	○待機的 ○緊急	緊急：前日までに予定されていなかったPCI 待機的：上記以外の予定されたPCI
PCI開始時間帯	【PCIのステータス】で「緊急」を選んだ場合に記入する。 ○7:00-17:59 の間 ○18:00-22:59 の間 ○23:00-6:59 の間	厚生労働省の定める通常の労働時間帯、深夜の時間帯、その間 という分け方
アクセスサイト	○大腿動脈 ○橈骨動脈 ○その他	
Door to balloon time	【今回入院に至った診断名】で「急性心筋梗塞（ST上昇型）」を選んだ場合に記入する。 ○有[_____]分 ○不明	病院到着から標的病変に対してバルーンを拡張させるあるいは血栓吸引するまでの時間。 時間は半角整数3桁。「50分」の場合は「50」として記入。 記入範囲は1-500。
透視時間	○有[_____]分 ○不明	時間は半角整数3桁。「50分」の場合は「50」として記入。 記入範囲は1-500。
手術時間	[_____]分	入室から退室までの時間を記入。 整数値で記入範囲は10-999。
造影剤使用量	[_____]ml	整数値で記入範囲は1-1999。
PCI施行にあたっての血管内イメージングデバイスの使用	○有 ○無	
デバイス種類(血管内イメージング)	【PCI施行にあたっての血管内イメージングデバイスの使用】で「有」を選んだ場合に記入する。 □IVUS □OCT □OFDI □血管内視鏡 □その他	
PCI施行にあたっての補助循環デバイスの使用	○有 ○無	
デバイス種類(補助循環)	【PCI施行にあたっての補助循環デバイスの使用】で「有」を選んだ場合に記入する。 □IABP □PCPS □Impella □LVAD □その他	
IABP タイミング	【デバイス種類】で「IABP」を選んだ場合に記入する。 ○術前 ○術中 ○術後	

PCPS タイミング	【デバイス種類】で「PCPS」を選んだ場合に記入する。 ○術前 ○術中 ○術後
Impella タイミング	【デバイス種類】で「Impella」を選んだ場合に記入する。 ○術前 ○術中 ○術後
LVAD タイミング	【デバイス種類】で「LVAD」を選んだ場合に記入する。 ○術前 ○術中 ○術後
その他 タイミング	【デバイス種類】で「その他」を選んだ場合に記入する。 ○術前 ○術中 ○術後
病変の部位	☐ RCA（右冠状動脈） ☐ LM・LAD（左冠状動脈主管部・前下行枝） ☐ LCX（左冠状動脈回旋枝） ☐ グラフト病変 ☐ その他

病変番号	実施有無	病変性状 【実地有無】が 「有」の場合に記 入する。	成否 病変成功:PCI 施行後の標的血管の 狭窄度が目視で25%以下かつ末梢 血管まで遅延なく造影される[TIMI 3 flow].	使用機器	
RCA(右冠状動脈) ※【病変の部位】で「RCA(右冠状 動脈)」を選択した場合、右記を 記入する。	#1	○有 ○無 ○不明	○新規 ○再狭窄 ○不詳	○成功 ○不成功 ○不明	☐ バルーンのみ ☐ 薬剤溶出バルーン ☐ 金属ステント ☐ 薬剤溶出ステント(DES:DCSを 含む) ☐ ロータブレード ☐ アテレクトミー(DiamondBack) ☐ ELCA ☐ DCA ☐ IVL(Shockwave C2) ☐ BRS ☐ 血栓吸引 ☐ 遠位部保護 ☐ ワイヤー/デバイス不通過 ☐ その他 ☐ 不明
	#2	○有 ○無 ○不明	○新規 ○再狭窄 ○不詳	○成功 ○不成功 ○不明	☐ バルーンのみ ☐ 薬剤溶出バルーン ☐ 金属ステント ☐ 薬剤溶出ステント(DES:DCSを 含む) ☐ ロータブレード ☐ アテレクトミー(DiamondBack) ☐ ELCA ☐ DCA ☐ IVL(Shockwave C2) ☐ BRS ☐ 血栓吸引 ☐ 遠位部保護 ☐ ワイヤー/デバイス不通過 ☐ その他 ☐ 不明
	#3	○有 ○無 ○不明	○新規 ○再狭窄 ○不詳	○成功 ○不成功 ○不明	☐ バルーンのみ ☐ 薬剤溶出バルーン ☐ 金属ステント ☐ 薬剤溶出ステント(DES:DCSを 含む) ☐ ロータブレード ☐ アテレクトミー(DiamondBack) ☐ ELCA ☐ DCA ☐ IVL(Shockwave C2) ☐ BRS ☐ 血栓吸引 ☐ 遠位部保護 ☐ ワイヤー/デバイス不通過 ☐ その他 ☐ 不明
	#4PD	○有 ○無 ○不明	○新規 ○再狭窄 ○不詳	○成功 ○不成功 ○不明	☐ バルーンのみ ☐ 薬剤溶出バルーン ☐ 金属ステント ☐ 薬剤溶出ステント(DES:DCSを 含む) ☐ ロータブレード ☐ アテレクトミー(DiamondBack) ☐ ELCA ☐ DCA ☐ IVL(Shockwave C2) ☐ BRS ☐ 血栓吸引 ☐ 遠位部保護 ☐ ワイヤー/デバイス不通過 ☐ その他 ☐ 不明

	#4AV	○有 ○無 ○不明	○新規 ○再狭窄 ○不詳	○成功 ○不成功 ○不明	☐バルーンのみ ☐薬剤溶出バルーン ☐金属ステント ☐薬剤溶出ステント (DES:DCSを含む) ☐ロータブレード ☐アテレクトミー (DiamondBack) ☐ELCA ☐DCA ☐IVL (Shockwave C2) ☐BRS ☐血栓吸引 ☐遠位部保護 ☐ワイヤー/デバイス不通過 ☐その他 ☐不明
--	------	---	--	--	---

	#8	☐ 有 ☐ 無 ☐ 不明	☐ 新規 ☐ 再狭窄 ☐ 不詳	☐ 成功 ☐ 不成功 ☐ 不明	☐ バルーンのみ ☐ 薬剤溶出バルーン ☐ 金属ステント ☐ 薬剤溶出ステント (DES:DCSを含む) ☐ ロータブレード ☐ アテレクトミー (DiamondBack) ☐ ELCA ☐ DCA ☐ IVL (Shockwave C2) ☐ BRS ☐ 血栓吸引 ☐ 遠位部保護 ☐ ワイヤー/デバイス不通過 ☐ その他 ☐ 不明
	#9	☐ 有 ☐ 無 ☐ 不明	☐ 新規 ☐ 再狭窄 ☐ 不詳	☐ 成功 ☐ 不成功 ☐ 不明	☐ バルーンのみ ☐ 薬剤溶出バルーン ☐ 金属ステント ☐ 薬剤溶出ステント (DES:DCSを含む) ☐ ロータブレード ☐ アテレクトミー (DiamondBack) ☐ ELCA ☐ DCA ☐ IVL (Shockwave C2) ☐ BRS ☐ 血栓吸引 ☐ 遠位部保護 ☐ ワイヤー/デバイス不通過 ☐ その他 ☐ 不明
	#10	☐ 有 ☐ 無 ☐ 不明	☐ 新規 ☐ 再狭窄 ☐ 不詳	☐ 成功 ☐ 不成功 ☐ 不明	☐ バルーンのみ ☐ 薬剤溶出バルーン ☐ 金属ステント ☐ 薬剤溶出ステント (DES:DCSを含む) ☐ ロータブレード ☐ アテレクトミー (DiamondBack) ☐ ELCA ☐ DCA ☐ IVL (Shockwave C2) ☐ BRS ☐ 血栓吸引 ☐ 遠位部保護 ☐ ワイヤー/デバイス不通過 ☐ その他 ☐ 不明

病変番号	実施有無	病変性状 【実地有無】が 「有」の場合に記 入する.	成否 病変成功:PCI 施行後の標的血管の狭窄度が目視で25%以下かつ末梢血管まで遅延なく造影される[TIMI 3 flow].	使用機器
#11	○有 ○無 ○不明	○新規 ○再狭窄 ○不詳	○成功 ○不成功 ○不明	☐ バルーンのみ ☐ 薬剤溶出バルーン ☐ 金属ステント ☐ 薬剤溶出ステント(DES:DCSを含む) ☐ ロータブレード ☐ アテレクトミー(DiamondBack) ☐ ELCA ☐ DCA ☐ IVL(Shockwave C2) ☐ BRS ☐ 血栓吸引 ☐ 遠位部保護 ☐ ワイヤー/デバイス不通過 ☐ その他 ☐ 不明
HL/#12	○有 ○無 ○不明	○新規 ○再狭窄 ○不詳	○成功 ○不成功 ○不明	☐ バルーンのみ ☐ 薬剤溶出バルーン ☐ 金属ステント ☐ 薬剤溶出ステント(DES:DCSを含む) ☐ ロータブレード ☐ アテレクトミー(DiamondBack) ☐ ELCA ☐ DCA ☐ IVL(Shockwave C2) ☐ BRS ☐ 血栓吸引 ☐ 遠位部保護 ☐ ワイヤー/デバイス不通過 ☐ その他 ☐ 不明
#13	○有 ○無 ○不明	○新規 ○再狭窄 ○不詳	○成功 ○不成功 ○不明	☐ バルーンのみ ☐ 薬剤溶出バルーン ☐ 金属ステント ☐ 薬剤溶出ステント(DES:DCSを含む) ☐ ロータブレード ☐ アテレクトミー(DiamondBack) ☐ ELCA ☐ DCA ☐ IVL(Shockwave C2) ☐ BRS ☐ 血栓吸引 ☐ 遠位部保護 ☐ ワイヤー/デバイス不通過 ☐ その他 ☐ 不明
#14	○有 ○無 ○不明	○新規 ○再狭窄 ○不詳	○成功 ○不成功 ○不明	☐ バルーンのみ ☐ 薬剤溶出バルーン ☐ 金属ステント ☐ 薬剤溶出ステント(DES:DCSを含む) ☐ ロータブレード ☐ アテレクトミー(DiamondBack) ☐ ELCA ☐ DCA ☐ IVL(Shockwave C2) ☐ BRS ☐ 血栓吸引 ☐ 遠位部保護 ☐ ワイヤー/デバイス不通過 ☐ その他 ☐ 不明

LCX(左冠状動脈回旋枝)
 ※【病変の部位】で「LCX
 (左冠状動脈回旋枝)」を
 選択した場合、右記を記
 入する。

	#15	○有 ○無 ○不明	○新規 ○再狭窄 ○不詳	○成功 ○不成功 ○不明	☐バルーンのみ ☐薬剤溶出バルーン ☐金属ステント ☐薬剤溶出ステント (DES:DCSを含む) ☐ロータブレード ☐アテレクトミー (DiamondBack) ☐ELCA ☐DCA ☐IVL (Shockwave C2) ☐BRS ☐血栓吸引 ☐遠位部保護 ☐ワイヤー/デバイス不通過 ☐その他 ☐不明
--	-----	---	--	--	---

	AG (LAD)	○有 ○無 ○不明	○新規 ○再狭窄 ○不詳	○成功 ○不成功 ○不明	☐ バルーンのみ ☐ 薬剤溶出バルーン ☐ 金属ステント ☐ 薬剤溶出ステント (DES:DCSを含む) ☐ ロータブレード ☐ アテレクトミー (DiamondBack) ☐ ELCA ☐ DCA ☐ IVL (Shockwave C2) ☐ BRS ☐ 血栓吸引 ☐ 遠位部保護 ☐ ワイヤー/デバイス不通過 ☐ その他 ☐ 不明
	AG (LCX)	○有 ○無 ○不明	○新規 ○再狭窄 ○不詳	○成功 ○不成功 ○不明	☐ バルーンのみ ☐ 薬剤溶出バルーン ☐ 金属ステント ☐ 薬剤溶出ステント (DES:DCSを含む) ☐ ロータブレード ☐ アテレクトミー (DiamondBack) ☐ ELCA ☐ DCA ☐ IVL (Shockwave C2) ☐ BRS ☐ 血栓吸引 ☐ 遠位部保護 ☐ ワイヤー/デバイス不通過 ☐ その他 ☐ 不明
	AG (RCA)	○有 ○無 ○不明	○新規 ○再狭窄 ○不詳	○成功 ○不成功 ○不明	☐ バルーンのみ ☐ 薬剤溶出バルーン ☐ 金属ステント ☐ 薬剤溶出ステント (DES:DCSを含む) ☐ ロータブレード ☐ アテレクトミー (DiamondBack) ☐ ELCA ☐ DCA ☐ IVL (Shockwave C2) ☐ BRS ☐ 血栓吸引 ☐ 遠位部保護 ☐ ワイヤー/デバイス不通過 ☐ その他 ☐ 不明
その他 ※【病変の部位】で「その他」を選択した場合、右記を記入する。	病変番号	実施有無	病変性状 【実地有無】が「有」の場合に記入する。	成否 病変成功:PCI 施行後の標的血管の狭窄度が目視で25%以下かつ末梢血管まで遅延なく造影される[TIMI 3 flow].	使用機器
		○有 ○無 ○不明	○新規 ○再狭窄 ○不詳	○成功 ○不成功 ○不明	☐ バルーンのみ ☐ 薬剤溶出バルーン ☐ 金属ステント ☐ 薬剤溶出ステント (DES:DCSを含む) ☐ ロータブレード ☐ アテレクトミー (DiamondBack) ☐ ELCA ☐ DCA ☐ IVL (Shockwave C2) ☐ BRS ☐ 血栓吸引 ☐ 遠位部保護 ☐ ワイヤー/デバイス不通過 ☐ その他 ☐ 不明

手術・インターベンション情報術後情報

手技に関する合併症	○有 ○無 「有」の場合、以下の選択肢を記入する。 ☐PCI手技による心筋梗塞 ☐心タンポナーデ ☐補助循環や強心薬を必要とする心不全・ショック ☐ステント血栓症(院内発症) ☐緊急手術 ☐輸血を必要とする出血性合併症(アクセスサイト) ☐輸血を必要とする出血性合併症(非アクセスサイト) ☐その他	J-PCI表紙「手技に関する合併症」参照。
院内死亡	○有 ○無	J-PCI表紙「院内死亡」参照。
院内死亡日	【院内死亡】で「有」を選んだ場合に記入する。 【PCI施行日】以降の日付で未来日の記入は不可。 西暦_____年 ____月 ____日	
死因	【院内死亡】で「有」を選んだ場合に記入する。 ☐心臓死(手技関連死) ☐心臓死(その他の心臓死) ☐非心臓死	J-PCI表紙「院内死亡」参照。
抗血栓薬(PCI後投薬)	【院内死亡】で「無」を選んだ場合に記入する。 ☐アスピリン ☐クロピドグレル ☐プラスグレル ☐チカグレロル ☐その他の抗血小板薬 ☐ワーファリン ☐DOAC ☐その他の抗凝固薬 ☐抗血栓薬なし	